Kochi International Association

（財）高知県国際交流協会

2009 世界の笑顔集まれ

WINDOW

映画「The Harimaya Bridge はりまや橋」での１シーン

©2009「The Harimaya Bridge はりまや橋」LLP

2009
Autumn
No.51

特集 映画 The Harimaya Bridge はりまや橋

- 災害時語学サポーター養成講座を開催しました
- 私たちも学ぶことが多い「ジュニア国際大学」
- 新しい高知県国際交流員の紹介（オーストラリア、韓国、中国）
- Letter from abroad
  - 大年頼史（バヌアツ共和国）
- 民間国際交流団体の紹介
  - 高知ルクセンブルグ協会
- INFORMATION　BOARD
  - 国際ふれあい広場2009のご案内

たいさくくん

災害時語学サポーター養成講座を開催しました

ヘルパちゃん

ⓒやなせたかし（高知県防災キャラクター）

在住外国人向け南海地震対策の一環として平成19年度から開始しました「災害時語学サポーター養成講座」を、今年も６月６日（土）・７日（日）の２日間、高知市の高知共済会館で開催し、35名の方が受講しました。言語別では、英語12名、中国語８名、韓国語４名、タガログ語４名、インドネシア語２名、ベトナム語５名が受講しました。今年初めて参加した方が多くを占める中、19年度から毎年受講される常連の方も少数ですがいました。また、外国籍の方も今年は11名受講してくれました。

この「災害時語学サポーター養成講座」は、南海地震などの大規模災害が発生したときに、在住外国人を言葉の面で支援できる語学ボランティアを養成するものです。今年は初日と２日目の午前中にテキストを使用し様々な場面（例：病院や市役所での通訳）を想定してのロールプレイを行いました。日本人受講者の外国語レベルは相当高いものがありますが、災害発生状況で使用する専門用語などは、日常で使用する機会がほとんどないため、事前に学習をしておかないとすぐに口から出てこない様子でした。外国人受講者は反対に、そうした専門用語の日本語での理解が十分にできていないため、日本語で書かれた講座用テキストを読み込むのに苦労している様子でした。

テキストを使用してのロールプレイ

AEDを使った心肺蘇生法の学習

２日目の午後には高知市消防局の消防署員を講師に普通救命講習を行い、ＡＥＤの使用法を含めた心肺蘇生法を中心に日本語で学習しました。これは高知県が平成21年２月に策定した「南海地震対策行動計画」にある「震災に強い人づくり」の実施目標到達に沿うように、災害時語学サポーターになろうとする方にも災害時における基礎的な救命措置を学習していただき、いざという時に役立てていただくことを目的に実施しました。命にかかわる講習でしたので、皆が真剣に消防署員の説明に耳を傾け、心臓マッサージや人工呼吸などの実践プログラムに取り組みました。

こうして受講した参加者は災害時語学サポーターとして当協会に登録することになりますが、今年８月現在で、英語25名、中国語15名、韓国語11名、タガログ語11名、インドネシア語５名、ベトナム語８名の75名が登録されています。登録された方には当協会などが実施する在住外国人向け南海地震対策事業（防災訓練など）に積極的に参加していただくことが求められていますが、自分のできる範囲で日本語の不自由な在住外国人をサポートしていただければよいのではないかと思っています。来年度もこの養成講座の開催を予定していますので、皆さんの外国語能力を善意の活動に役立てられてはいかがでしょうか？

私たちも学ぶことが多い「ジュニア国際大学」

－これまでの開催を振り返って思うこと－

財団法人高知県国際交流協会
マネージャー　吉田　進

今年も６月27日（土）に、いの町天王の県立青少年の家で「ジュニア国際大学」を開催することができました。県内での新型インフルエンザの発生を心配していましたが、36名の小学４年生から６年生の子供たちの元気な姿を目にすると、そんな心配も一瞬にして吹き飛んでしまいました。梅雨の合間の晴れ間も手伝って、子供たちの笑顔がますます輝きを増していきました。

イタリアのカード遊び（平成17年度）

この「ジュニア国際大学」は、日本社会における急速な国際化と英語教育の低年齢化を受けて、県内小学生に異文化に対応できるコミュニケーション能力と世界についての正しい知識を身につけてもらおうという思いで４年前に始めました。これまでの５回の開催で175人の小学校高学年が大学の門を叩いてくれました。その中には４年生から３年連続で参加した子どもも数多く含まれています。また、最近になってマスコミに取り上げられるようになり、県内における小学生向けの国際理解講座の定番メニューとして、その存在がやっと認知されてきました。

いろんな国の場所と国旗を覚える（平成18年度）

回を重ねるにつれて、様々なことを私たち職員にも教えてくれる大学でした。外国の遊びをその国の言葉でやってみるという授業では、当初、日本と外国との違いを際立たせることに主眼を置いていましたが、実際に子供たちに他国の遊びを体験してもらうにつれ、違いよりも類似点のほうが目立つようになりました。今年の遊びの中でも、「すごろく」や土佐の「ハシケン」に似た遊びが外国にもあることを知り、遊びを通じた文化の類似性を小学生のみならず私たちも学ぶことができました。

JICA国際協力推進員による授業（平成19年度）

また、外国の事を知ることも大切なことですが、日本の事を外国に伝えるための発信力も、異文化コミュニケーション能力を高める上で、育んでいかなければならない素養の一つであることを、今年の外国の遊びを教えてくれた外国人から教わりました。「国際理解」とは、自国の事を十分理解して初めて他国の事を深く理解できることを示唆する発言と受け止め、国際理解教育を実践する者として、この言葉を深く胸に刻み込むことにしました。

平成21年度集合写真.

来年も６月に開催する予定です。県内各地から元気で好奇心旺盛な小学生の参加をお待ちしています。

ジュニア国際大学基本情報

- 開催日時：６月第３または第４土曜日10時～16時
- 会　　場：県立青少年の家（いの町天王）
- 募集人員：県内の小学校高学年（４年生～６年生）30名

特集 The Harimaya Bridge はりまや橋

サンフランシスコに住む写真家ダニエル・ホルダー（ベン・ギロリ）の一人息子ミッキー（ヴィクター・グラント）は、日本の高知県のとある町に英語教師として赴任、画家としての才能を発揮していた。しかし、1年もたたずにミッキーは交通事故に遭い命を落としてしまう。太平洋戦争で自らの父を日本兵に殺され、今また愛する息子をも日本で失ってしまうというおぞましい悲劇がダニエルを襲う―。

日本への抑えきれない嫌悪感と偏見を抱えつつ、息子が遺した絵をかき集めるため単身日本・高知を訪れたダニエル。高知ではミッキーを弟のようにかわいがっていた原先生（清水美沙）や、かつての上司（山崎一）、同僚（misono）に思いのほか温かく迎えられ、意外なまでに高知の人々に愛されていた息子の生活を目の当たりにし、激しく戸惑う。

そんなある日、訪れた中学校の竹内先生（白石美帆）に、息子の教え子（穂のか）を紹介され、プレゼントされた絵によって思いがけない事実を知る。

ミッキーが同僚の紀子（高岡早紀）と結婚していたこと、そしてふたりの間に生まれていた新しい命の存在を―。

今、話題の映画「The Harimaya Bridge はりまや橋」のアロン・ウルフォーク監督にお話を伺いましたので、ご紹介します。

アメリカ・カリフォルニア州オークランド生まれ
1992年から1年間英語指導助手（AET）として高知県須崎市で暮す
コロンビア大学大学院・映画学科（ニューヨーク）卒業

監督／アロン・ウルフォーク
Aaron Woolfolk

■高知の「はりまや橋」を題材にして映画を製作しようとした動機を教えてください。

高知を舞台とした物語なので、映画の中に高知の有名なものを取り入れたいと考え、最初に思い浮かんだのが“はりまや橋”でした。そして、この映画では国や人種、異文化、世代を超えて互いに架け橋を作り交流することをテーマとしているので、はりまや橋をその「架け橋」の象徴にしました。それは登場人物が自分たちの人生の中に平和と心の安らぎを見つけるために渡らなければならない橋でもあるのです。

■映画「はりまや橋」を通して、観客に伝えたいことは何ですか？

互いに許し合うこと、そして人種、国籍、階級、世代の違いの中に潜む偏見の壁を壊すことをこの映画の中で描きたい、映画の中の登場人物がその壁を乗り越え、共に未来へ向かって歩いて行く様を見てもらいたいと思いました。

私はミッキーと紀子を未来へ進んで行こうとしている人たちの代表として描きました。また、ダニエルと紀子の父親は、その偏見の壁をこれから乗り越えていかなければならない人々を表わしています。

■映画の中で、アロンさんが特にこだわったとことは、どういうところですか？

本物を感じられる映画を作りたいと思いました。“これが私の故郷・高知です”“この登場人物は高知の人なのです”と、自慢してもらいたいと思いました。そのために、細部にまでこだわり、まずは俳優たちが土佐弁を話すことを重要視しました。

高知の人たちにテープを作ってもらい、土佐弁の指導もしてもらいました。これはほんの一例にすぎませんが、本物を作り上げるということにこだわり撮影を進めて行きました。

■映画製作に当たって、いろいろご苦労もあったと思いますが、どのようなことが大変でしたか？また、それはどのように克服（解決）されましたか？

個人的に一番大変だったことは、私自身の日本語があまり上手ではないということです。

撮影中はすべてがスピード感をもって進みますので、日本語も早口で話されます。私はその会話のスピードについて行くことができませんでした。

アメリカで撮影中は、仲間の言葉が理解できるので、いま何が起こっているか分かり安心です。しかし高知での撮影ではそれができませんでした。通訳がいましたが、同時に複数の人が話したらたちまち分からなくなりました。しかし、これは私にとって大変貴重な経験となり、このような経験ができて良かったと思っています。なぜなら、これは乗り越えるべき挑戦であり、そのことが人間を大きく成長させてくれるからです。

演技指導をするアロン監督（中央）
ダニエル役のベン・ギロリ氏（左）
ジョセフ役のダニー・グローヴァー氏（右）

■山間の段々畑や民家の風景などが、非常に叙情的に美しく描かれており、見る人に“高知にもこんないいところがあるのか”と気づかせてくれました。アロンさんの日本（高知）の風景などに対する特別な思いなどありましたらお聞かせください。

“はりまや橋”では日本の美しい田舎、人々の温かさを取り上げたかったのです。特に高知の美しさを皆さんに見てもらいたいと思いました。この映画を見た人に、高知に行きたいと思ってもらえるものにしたかったです。

私が17年間日本を行き来する中で気付いたことは、四国外から高知を訪れる人が少ないということです。だからこそ全国の人にこの映画を見てもらい“高知がこんなに美しいところだとは知らなかった、すぐにでも行ってみたいな”と言ってもらいたいのです。実際に、この映画を見るまでは高知への旅行を考えたこともなかったと言う新潟の女性から、映画を見て高知へ行こうと思っていると聞いた時、私はとても感激しました。

撮影スタッフと（佐川町）

映画を見てくださった大勢の方々から、私がどれほど高知を愛しているのかが伝わってきたと言ってもらった時は、“私の高知に対する思いがみんなにも届いたんだなぁ”と嬉しく思いました。

■「はりまや橋」は、日本全国で上映されましたが、どのような反響がありましたか？

映画評論家や一般の映画ファンからすごくいい映画だったという感想をいただきました。そして、“日本人ではない監督によって書かれ、撮影されたとは信じられない”“アメリカ人であって日本人の魂を持っている”とも言われました。このような感想はいつも私を笑顔にしてくれます。また、多くの人たちは、いわゆるハリウッド映画的ではない本当の日本人を表現してくれて感謝していると言ってくれます。

この映画がきっかけとなり、人種や文化の違いを知ること、そしてそれを受け入れることを考えるようになったと多くの方から聞きました。また、たくさんの女性から原さんや紀子によって強い日本の女性の姿が描かれていると言っていただきました。このような感想を聞けてとても嬉しく思っています。

■映画「はりまや橋」は10月15日開催の「ハワイ映画祭」に続き、アメリカの「第10回サンデイエゴアジア映画祭」、メキシコの「第3回カンクン・リビエラマヤ国際映画祭」に出品されることが決まっていますね。この映画がアロンさんにとって初めての長編作品でもありますが、世界で上映されることをどのように思いますか？

初めての長編映画がこのような機会に恵まれ本当に幸運に思います。また、世界中に高知の人々や高知の文化などを紹介できることをとても嬉しく思います。

スタッフ、俳優、地元・高知の皆さん、そのほか協力してくださった団体、たくさんの人々がこの映画のために尽力してくださいました。だからこそ、わたしは、皆さんの努力が世界に認められるということが本当に嬉しいのです。

■最後に、アロンさんから高知の皆さんに何かメッセージをお願いします。

これは私から高知へのラブレターです。

1992年に１年間、AETとして初めて高知に来ました。その後もほぼ毎年高知に戻って来ています。高知に住んだことは私の人生を大きく変えました。そして、私に幸せを与え続けてくれています。

須崎市での撮影現場
ダニエル役のベン・ギロリ氏（中央）

映画の撮影にあたって、高知の皆さんには多大なご協力をいただき、心の底から感謝しています。本当にありがとうございました。

写真提供：
©Harimaya Bridge,LLP
©2009「The Harimaya Bridge はりまや橋」LLP
（注）画像の無断転用等は禁止します。

映画「The Harimaya Bridge はりまや橋」は日本（高知）の美しさの中に、人と人との繋がりの大切さや温かさを描き、国境を超えた人間愛、自己発見の物語をみずみずしく表現した、一人ひとりの心の「橋」が架かる胸を打つ物語です。

映画を通し、アロン監督の高知を愛する気持ちが伝わってくると同時に、この映画によって高知の田舎の風景や家並みが観る者の郷愁をかきたてます。また、支援グループによる「ロケ地めぐりツアー」が企画されるなど、地域の活性化にも一役買っています。今後も各市町村のホール等で上映が予定されていますので、まだご覧になっていない方は、ぜひご観賞ください。

（今後の上映予定等）
9月26日（土）　安芸市民会館
上映時間：①13:00　②16:00　③19:00
料　　金：一般　1,800円／学生　1,500円／
　　小人　1,000円／シニア　1,000円
※前売券もご利用いただけます。
12月11日㈮DVDセル＆レンタル同時リリース
発売元：東映ビデオ

新しい高知県国際交流員の紹介

スティーブン・ユイン
（オーストラリア・シドニー出身）

はじめまして、高知県文化・国際課の新しい国際交流員、スティーブン・ユインと申します。国際交流員になる前に２年間高知県教育センター、高知農業高校、そして東工業高校で外国語指導助手（ALT）を務めました。

香港生まれですが、９歳の時に家族でニュージーランドへ移住しましたのでニュージーランドの国籍を持っています。19歳で大学のためにオーストラリアにまた移住してオーストラリアの国民にもなりました。香港、ニュージーランド、そしてオーストラリア３つのアイデンティティーがあることは珍しいと思われるかもしれませんが、私のような人は母国に少なくはありません。家族の中では広東語をしゃべっていますが、普段生活で一番使っているのは英語です。

日本との出会いは高校２年生のとき、ニュージーランドのマヌカウ市と姉妹都市である栃木県の宇都宮市に２ヶ月間の留学でした。大学を卒業した後、また来日し、住み心地のいい高知に住め、本当にうれしいです。これからも高知県民と外国人との交流の架け橋になれたらいいと思っています。また、来年４月の土佐弁ミュージカルの代表は私となっていますので応援をよろしくお願いします。

金（キム）　恵栄（ヘヨン）
（韓国全羅南道出身）

アンニョンハセヨ。こんにちは。今年の４月に高知に来た金（キム）　恵栄（ヘヨン）と申します。高知に来てから、もう４ヶ月が経ちましたが、私はまだ高知というところに来て毎日「宝探しゲーム」をしているような気がします。

好奇心の多い私にとって高知は、ふたを開けたばかりの宝箱であり、どこでどんな面白いものに出会うか分らないびっくり箱のようです。ちなみに、私の最初の発見した宝は鳴子です。初めて見た時、高知には飾りが付いた変わった形のしゃもじがたくさんあるなと思いました（笑）。今年は私もよさこい祭りで鳴子を鳴らしながら楽しく踊りました。最初は鳴子の独特な持ち方が難しかったですが、知らないうちにうまく鳴らすようになって、とても嬉しかったです。

これからも、毎日アンテナを張り巡らせながら、高知の宝を探検し発見していきたいと思います。そして、高知と韓国の架け橋になって、素敵な高知のことを韓国に伝えるために頑張りたいと思います。

陶（トウ）　亜（ア）　俐（リ）
（中国安徽省出身）

高知に着いた時は、晴れだった。今でも覚えているが、龍馬空港に降りた時は、澄んだ青空の下で、爽やかな風を受けながら、感動していた。無心に空を振り仰いで見たら、目の前のその色は、生まれて初めて発見する美しさだと言っても過言ではない。

私は撮影が好きだから、その後もよくカメラを背負って出かけているが、なんと高知で撮れた写真は全て同じ特徴がある。それは空気がまるで洗ったように、透明で無邪気、そして落ち着いて綺麗なのだ。

高知のこのような雰囲気は、本当に好き。これはきっと自然環境に恵まれただけでなく、高知県民の明るさと温かさからもできているのだと思われる。心と体、個人と社会、人間と世界がこれほどまでに調和がとれているのだと、感動し続けている。

このような素晴らしさを、国に帰ったら皆に伝えたいと思っている。この高知の青空や、この「和の美しさ」に対する感動を忘れることなく、中日交流の架け橋として、頑張っていこうと決意した。

高知県国際交流員とは…

国際交流員（CIR）は、地域レベルの国際化、国際交流の促進のため県が行う国際交流事業に対する企画助言・参加を中心に、市町村や学校、国際交流団体等が行う一般県民・学生・生徒を対象としたイベントや国際理解教育で自らの経験や自国の文化について講演などを行っています。

学校の授業や国際交流イベントに国際交流員を派遣してほしい場合は、あらかじめ電話等で文化・国際課担当者に派遣希望日と依頼内容の概要を伝え、国際交流員の日程を確認した上で、派遣申請書及び派遣計画書を提出していただきます。なお、営利を目的とした内容や国際交流員のスケジュールによっては対応できない場合があります。

詳細については、高知県文化・国際課（☎088－823－9605）まで、お問い合わせください。

Letter from abroad

バヌアツ共和国からのたより

JICA青年海外協力隊　　大　年　頼　史

授業の様子（中央が筆者）

平成20年９月にバヌアツ共和国に派遣され、小学校の体育教諭として活動しています。

バヌアツ共和国は、南太平洋に浮かぶ国で大小83の島々からできており、新潟県と同じくらいの広さです。

私は、タンナ島で小学校を巡回しながら、現地の先生たちに体育の価値を広め、指導する技術を伝えるため、日々活動しております。バヌアツの教育の中心は算数と語学で、体育の価値は低く、教える先生たちが体育の授業を受けたことがないため、どのようなものが体育なのか知らないという現状があります。

授業の様子　斜面でも授業を行っています。

日本の様に体育で使用する物品が充分でありません。また、グラウンドがしっかりと整備されておらず、斜面に校庭がある学校もあります。そんな中で現地にあるものだけで如何に授業を行っていくかを考えるのは、大変でもあり楽しみでもあります。

授業の様子、なんとか形になってます。

ある調査においてバヌアツは「世界で最も幸せな国」として認定されています。全人口の約半分が貧困ライン（１日当たりUS$1）以下で暮らしているにもかかわらず、路上生活者や生活に困っている人をまだ見たことがありません。彼らは質素ではあるが、村の人同士や家族の繋がりをとても大事にしています。自給自足し、分け合い、村全体で協力しながら暮らしています。これが世界で最も幸せな国と言われる所以なのだと感じています。日本が忘れてしまった何かがここにはあるような気がしながら、あと１年程の任期を有意義なものにしていきたいと思っています。

大年さんほか JICA ボランティアで活躍されている方のブログで世界を感じてみませんか？
http://worldreporter.jica.go.jp/blog/index.php

民間国際交流団体紹介

『高知ルクセンブルグ協会』

代表　ステファニー・ショルテス

フランス語を使用するヨーロッパ諸国を思い浮かべてください。モナコ公国、アンドラ公国、ベルギー王国、ルクセンブルグ大公国、スイス連邦、フランス共和国がひらめく事でしょう。

世界でただ１つの大公国であるルクセンブルグはEUを当初より提唱し、ルクセンブルグのシェンゲンにてシェンゲン協定が調印されました。

当協会は、在京ルクセンブルグ大公国大使館のポール・シュタインメッツ大使の公認のもと発足しました。

フランスからの友人をお迎えして

毎週１回のフランス語講座や、高知県の魅力ある伝統工芸、文化、食、自然、そして土佐人をフランス語で、フランス語圏ヨーロッパ諸国の読者に発信する情報誌TOSA JAPON（土佐ジャポン）を手作りしています。

このTOSA JAPONを通じて、土佐人とフランス語圏ヨーロッパの人々がふれあい、交流の場が広がることを目的としております。

そして読者が高知県を訪れる際、高知の会員と連絡を取り合うことで、より楽しく、より充実した人と人とのふれあいができ、気が付いたらリピーターとして高知のファンになる、高知の友人ができる、という事が一番の活動内容なのです。高知の会員もフランス語圏ヨーロッパ諸国の友人ができ、人生がより楽しくなります。

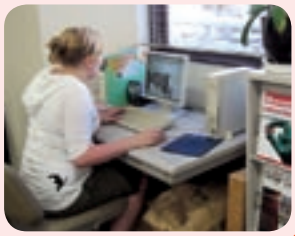
この夏もルクセンブルグの銀行に勤める人など14人のフランス人を高知に迎えますので、皆で楽しいバカンスを企画している最中です。

ルクセンブルグの芸術家を大自然の家に招き制作の場とする企画や、ルクセンブルグ写真家の展覧会の企画も温めています。

活動場所
〒781-0253　高知市瀬戸南町2丁目8番43-3　第Ⅱ瀬戸ハイツ101号
電話080-6393-2606　　Email:kochi.luxembourg@gmail.com
事務局担当：山下　和則

INFORMATION BOARD

まだまだ残暑の厳しい９月、ふと“外国に行ってみたい”“英語に触れてみたいな”と思ったら、涼みがてらに高知県国際交流協会（KIA）を覗いてみませんか？
KIAの交流フロアでは、次のようなサービスがありますので、ご紹介します。



- ■図書（英語／日本語）、雑誌、英字新聞等の閲覧（図書の貸し出しもしています。）
- ■海外ボランティア活動、海外留学等に関する情報の提供
- ■ビデオの変換（外国で録画したビデオを日本で見られるように変換、日本で録画したものを外国で見られるようにするサービス）
- ■掲示板（Information Board）で語学の交換学習等を募集できます。（出会い作り・情報交換）
- ■インターネットで情報の収集・提供ができます。（無料）

今年もやります！「国際ふれあい広場2009」

今年も国際協力・交流に関する総合イベント「国際ふれあい広場2009」を以下のとおり開催します。盛り沢山の内容となっていますので、お誘い合わせの上ぜひお越しください。

主催 財団法人高知県国際交流協会

共催 JICA四国（独立行政法人国際協力機構四国支部）

協賛 JAL高知支店（株式会社日本航空インターナショナル高知支店）

日時 10月10日㈯　13:00～16:30
10月17日㈯・18日㈰　10:00～17:00

会場 ひろめ市場イベント広場、人権啓発センターホール、帯屋町商店街

内容

10日
- ●チャンタソン・インタヴォン氏（【NPO法人ラオスの子ども】共同代表）による基調講演会（13:00～14:15）
  講演テーマ「ラオスに学校をつくりたい！」
- ●国際土佐っ子メッセージ（14:30～16:30）－中学生による弁論大会－
  最優秀発表者には高知―東京間JAL往復無料航空券が贈呈されます。

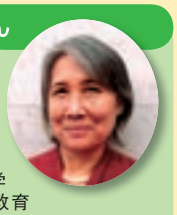
17日のみ
- ●団体活動報告会（安徽省日中友好の森づくりネットワーク）

18日のみ
- ●中国家庭料理（肉饅・水餃子）の販売、高知城英語ガイド講座、第44回日中友好の集い、ザンビアを支援する会員による講演会

17・18日両日
- ●ザンビア・グアテマラ・ラオス・インドネシア民芸品展示販売会、ハワイ・コナコーヒーとケーキの販売、JICAボランティア相談会、県出身海外ボランティアの紹介、ユニセフ募金活動、国際協力・国際交流パネル写真展

詳しくは、当協会HPをご覧ください➡ 高知県国際交流協会 検索

チャンタソンさん



プロフィール
ラオス出身。高等学校卒業後、1974年来日。お茶の水女子大学、大学院修士課程、東京都立大学大学院博士課程で教育行政・識字教育を専攻。
通訳・翻訳家、ラオス文化、教育、ラオスの織物、女性の自立などの講師。

1982年　NPO法人ラオスのこどもを設立し、共同代表。
1992年　日本青年会議所TOYP賞（外務大臣賞）
1998年　ラオスのヴィエンチャン郊外にホアイホン職業訓練センター設立、代表
1999年　毎日国際交流賞受賞
2000年　アジア女性人権特別賞受賞

昨年の国際ふれあい広場

（財）高知県国際交流協会　〒780-0870　高知県高知市本町4-1-37
TEL：088-875-0022　FAX：088-875-4929　HP：http://www.kochi-kia.or.jp/　e-mail：info_kia@kochi-kia.or.jp